

1 文献名
『城東』
2 学校名
城東小学校
3 災害名
昭和 34 年（1959 年）伊勢湾台風
4 記述の概要
<p>（1）雨や風、地震などの様子</p> <p>9 月 26 日の夜、海の水は、あっという間に堤防をのりこえ、強い風とともに家々をこわして、人々の命をうばった。水の最も深かったのは、城南干拓地で 4.8 メートルもあった。（P61～62）</p>
<p>（2）学校内や地域の被害の状況</p> <p>桑名市だけで、197 名が亡くなり、城東小学校でも地蔵地区の 5 名の児童が亡くなった。本校（城東小学校）校舎は全壊状態となり、給食室は天井近くまで浸水した。校舎の中にあった、たくさんの勉強道具や大切な書類もだめになり、すべての備品が流失した。</p> <p>東野地区にある家の屋根に、舟がのし上がっていた。</p> <p>夜が明けると、学校のまわりは一面の海で、死んだ牛やにわとりが浮き、家の道具や木材が流れていた。（P61～64、133）</p>
<p>（3）復旧の様子</p> <p>その後海の水は、一か月も引かなかったため、城東小学校の子どもたちは、立教小学校や説教所などにわかれて勉強した。10 月 26 日には、立教小学校で共同運動会が行われた。12 月 24 日には、立教小学校の校舎を借りていた城東小学校の子どもたちと、立教小学校の子どもたちのお別れ会が開かれた。（P65、68）</p> <p>2 年たった昭和 36 年 10 月に、鉄筋三階建の校舎と講堂が完成し、翌年の 7 月にはプールが完成した。（P69、133）</p>
<p>（4）体験談</p> <p>台風之夜、学校を守っていた宿直の先生や用務員のおばさんたちは、校舎の天井裏へ命からがら避難した。（P64）</p> <p>午後 7 時頃停電し、堤防が切れて、10 分くらいの間に（宿直をしていた学校に）水がきた。天井、屋根を破って、タル木をのこぎりで切って、はしごを屋根に向けてかけ、上へ出た。学校は水の中で孤立していたので、赤須賀から船で迎えに行った。（P122）</p>
<p>（5）教訓など</p>
<p>（6）その他</p> <p>※当時の城東小学校児童の伊勢湾台風の体験談がある。（P66～67）</p>

